

環境審議会委員からの意見に対する市の考え方

番号	ページ	意見	意見に対する市の考え方
1	1	P 1の「1計画策定の背景」の書き出し部分の「地球温暖化の問題は、私たちの生活環境と密接に関係し異常気象や生態系の変化などさまざまな影響が国内外で報告されています。」は主語述語の関係があいまいで、読みにくくなっています。例えば「地球温暖化の問題が深刻化し、異常気象の頻発や生態系の変化など、私たちの生活に様々な影響を与えていることが国内外で報告されています。」といった文章に修正できないでしょうか。7行目の「確認されました」も「指摘されました」とかのほうがいいのではないかと思います。	ご指摘のとおり修正します。
2	4	排出状況表の下に※で気象状況による影響がある旨を表示したほうが良い。	「※燃料使用量や電気使用量については、気象状況による影響があります。」を追記しました。
3	6	④A重油の使用に伴うものについて増加の要因は経年劣化と推測されるが、メンテナンスマニュアルを作成し年度毎の点検、修理、交換等を実施しているにもかかわらず増加しているのはどうか、そうでなければ対策を講じて増加を減少させる手段を講じる必要がある。	「学校給食施設、老人福祉センター及び非常用の自家発電機の燃料として使用しています。ボイラー設備等の経年劣化の課題に対し、更新時期に合わせて温室効果ガス排出量を低減させる省エネルギー設備への改修を実施する必要があります。」に修正します。また、給食センターについては、平成28年度中にA重油を使用するボイラーからガス式のものに改修しました。また、老人福祉センターについても計画期間内での改修を予定しています。
4	7・8	P 7、P 8の⑥都市ガスの使用に伴うものの、H27の削減率▲4.29と(2)電気の使用に伴うものの、H27の削減率▲6.05は入れ替え。入力ミスと思われます。都市ガスが、▲6.05で、電気が▲4.29が正しい。	ご指摘のとおり修正します。
5	9	「⑨一般廃棄物の焼却に伴うもの」第2次実行計画において増加し続けているので、どのような廃棄物が増えているのか原因を調査し根本的な対策を立てる必要があると思います。	P 9の「一般廃棄物」の記載を「可燃ごみ」に改めました。
6	10	第2次計画では目標達成が厳しい状況になったのに、P 10の「評価」も「課題」も甘いのではないかと、思います。「平均気温の上昇」や「既存施設の老朽化」などの不可抗力の理由を挙げるだけでなく、「職員の意識改革が足りなかった」などもう少し厳しい反省が必要だと思えます。このままでは、第3次計画でも目標達成は危ぶまれるのではないのでしょうか。LPガスが大幅に増えている理由もP 7の説明だけではよく分かりません。P 6のA重油についての説明もあいまいです。一般の市民が読んで分かるような内容にし、しかも第3次計画での大幅改善につながるような指摘にすべきだと思います。	職員の意識改革の継続について触れ、LPガス及びA重油の記載を修正しました。
7	11	温室効果ガスの削減目標について区域施策編の削減目標と事務事業編の目標数値が混同して分かりづらいので表示を項立にしたほうが良い。	目標値の混同を避けるため、区域施策編の目標値の記載を削除しました。
8	11	第2次計画では「5.85%削減」の目標達成が難しい中で、第3次計画の目標をそれほど高くできず「9.22%削減」とするのはやむを得ないのかもしれませんが、「区域施策編」の目標「11.4%削減」と比べ削減率が小さいことは奇異な感じを受けます。「市民が関与する計画は厳しいものにし、職員が関与する計画はそうではないのはなぜか」という市民からの質問にどう答えるのでしょうか。一方で、第2次計画では「5.85%削減」の目標達成ですら厳しいのに、第3次計画では「9.22%削減」を打ち出すことに違和感を持つ市民もいると思います。その辺のことを十分勘案した計画にし、なおかつ詳しい背景説明が必要だと思います。	「富士見市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）「計画期間 平成25年度～平成34年度」では、11.4%の削減を目標としています。このことから、（区域施策編）の削減率を用いて、本計画（事務事業編）の目標年度「平成33年度」の温室効果ガスの排出量を算出し、上記の削減目標を定めています。」を追記しました。
9	12	施設の更新等の計画を考慮しとあるが、財源確保が可能となっているのか。財政フレームや財源実施計画に位置づけされているのか、このことを踏まえての表記と解釈してよろしいのか。	「燃料使用に伴うものや電気使用に伴うもの等の温室効果ガスの削減については、第2次地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の評価と課題及び行政計画に則り、以下の数値を削減の目標とする。」に改めました。

10	12	CO ₂ の削減目標を、第2次計画でも未達成分を含め、平成33年度で、新たな基準年の平成27年度比9.22%削減としているが、平成19年度からの実績値をもとに回帰分析法で将来予測すると7,391t-CO ₂ になり、達成年の平成33年度は数値が一致するので計画通りで良いと思う。	平成27年度比で9.22%の温室効果ガス削減(751t-CO ₂)を目標に計画を推進します。P12に回帰分析法による検証について文言を追記しました。
11	13	P13ブナの木の変換について、他のデータの出典等があれば記載した方が良いのでは。 ※換算の詳細、他資料は「林野庁」「独立行政法人森林総合研究所」のHPを確認してください。	林野庁HPを参考に温室効果ガスの体積による換算値を追記しました。
12	14	P14の「(1)省エネルギーの推進」の「空調機器の適正使用」で「夏期のクールビズは、目安温度の室温28℃を超えず、冬期のウォームビズは、室温20℃を下回らない室温を保つよう…」とありますが、それぞれ「28℃を下回らず」「20℃を超えない」ではないでしょうか。いずれにしる誤解を招きかねない表現なので、「28℃に設定」「20℃に設定」などと簡略にしたほうが良いと思います。	「目安温度を夏期は室温28℃、冬期は室温20℃を目安とし冷暖房機器の適正運転を行う。」に修正します。
13	15	取り組み内容の一部に、具体性が欠ける様に思う。例えば、冷蔵庫や給湯器の温度設定は、管理の徹底や可能な限りの表現ではなく、具体的な数値目標が必要であると思う。	冷蔵庫の設定を「省エネ」に設定し、給湯器の温度設定を「低温」に設定します。
14	15	市内小中学校、環境施策推進市民会議による「エコライフDAY」の取り組みや計画の対象範囲となる他部門への働きかけを取り組みの中に記載した方が良い。	①「エコライフDAY」や「地球温暖化対策」への取組に自ら参加する。 ②エレベータの利用を最小限にし、積極的に階段を利用する。 ③市内公共施設利用者等へ「地球温暖化対策」への周知を行う。 を追記しました。
15	16	P16の「(2)省資源の推進」で⑦プロジェクター等の活用による、ペーパーレス化を推進する、とありますが、会議などでプロジェクター使用の場合、通常だとPowerPoint資料などを印刷して持っていくケースが多く、本当にペーパーレス化につながるのか、と心配になります。この項目をそのまま採用の場合は、何らかの簡単な説明が必要だと思います。	「電子媒体を活用したペーパーレス化を推進する。」に修正しました。
16	16	グリーン購入法についても、毎年度1～2アイテム等を数値目標に入れるべきであると思う。	クリーン購入法に基づく製品の購入については、今後も各課において実施することとします。 なお、全庁的な数値目標の設定については検討課題とします。
17	17	廃棄物の減量については、各自が持ち帰るのでは、持ち帰り先に負荷を与えることとなるので、富士見市一般廃棄物処理基本計画の趣旨に沿って、ごみとなるものを持ち込まないこと等の4Rの推進を織り込むべきではないか。	「4R(リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル)の推進する。」を追記します。
18	17	P17の「(5)環境に配慮した建設工事の推進」で③太陽光等再生エネルギー・省エネルギー化の導入に努める、とありますが、建設工事で太陽光発電を利用するケースがあるのでしょうか。また「省エネルギー化の導入」は「省エネルギー化の推進」などの表現がベターだと思います。	(5)の表題を「環境に配慮した建設工事及び再生可能エネルギー等導入の推進」に変更し、「③公共施設の太陽光等再生可能エネルギーの利用促進を図り、省エネルギー化の推進に努める。」に変更します。

19	18	<p>①目標値がさらに厳しいものとなっていますので、本来ならば、従来に比べプラスαの取り組みが必要ですが、内容は同じですね。ただし、その取り組みを徹底させるために、「取り組み内容について精査すること、実施主体を明確化したこと」は評価できるものです。さらに第5章で、PDCAサイクルによる継続的改善を意識させていることもよいことです。しかし、これらを推進する体制については、その責任と権限があいまいな感じを受けます。PDCAの図に加え、推進体制図も必要かと思えます。内容から判断しますと、検討委員会が推進の中核のようですが、ここからの報告が部局長会議へ上げられ、意見等により検討委員会へ指示や意見が出されるとあります。これらを市長に報告するとあります。市長はこれをどう処置するのでしょうか？出された意見、指示等を誰が、該当する部局へ指示するのかが不明です。</p> <p>②第5章「計画の推進体制及び管理体制」に本計画は「PDCAサイクル」を用いて継続的に改善します。と有り整合を取り、具体的に述べた方がよいのでは。</p> <p>③P18に「PDCAサイクル」の図が示されていますが、全体として見ると、今度の実行計画案ではCheckがうまく機能しておらず、サイクルが回っていないという印象を受けます。</p>	<p>ご指摘のとおり、推進体制図を追記し指示系統を明確化します。 推進員の研修や点検管理マニュアルを作成し、進捗管理を徹底します。</p>
20	20	<p>推進員は、学校・公民館・その他施設等へも設置されるのか。データ集計されている施設はすべて管理体制下にあるのか。</p>	<p>事務事業編では、市が行なう事務すべてを把握する必要があるため、すべての部署において推進員を設置します。 なお、第2次け計画においても推進員は設置している状況です。</p>
21	21	<p>点検表等の運用について「点検表は別に定める」とあるがどのようなものか。事務事業編に記載されるのか。計画の進捗のための点検・調査について「別に定める点検表管理基準とはどのようなものか。 定期的に進捗状況を確認しとあるが、定期的のタイミングと時期を記載したほうが良い。 定期的に点検表を提出すると記載があるが、定期的のタイミングと時期を記載したほうが良い。</p>	<p>進捗状況に応じて、速やかな点検表等の見直しを図るため、管理基準マニュアルを策定します。 また、進捗確認及び点検表の提出方法等についても、管理基準マニュアルの中で記載することとします。</p>
22	21	<p>職員研修について、それぞれ、何時実施するのか。</p>	<p>管理職研修は、各所属長、推進員研修は、各課推進員、新人研修は、新入職員を対象に年1回程度実施する予定です。研修の表の中に回数を追記しました。</p>
23	21	<p>公表について公表する内容の概略を記載した方がいいと思います。点検管理する項目と公表する項目は繋がっていることが重要です。</p>	<p>公表する内容（基準年度との比較増減量及び増減率）について、計画内に追記します。</p>
24	-	<p>環境については職員も軽く見がちの傾向があると推測され、大変ご苦労されていることと思います。職員一人一人が環境対策に興味を抱くよう引き続き啓蒙活動をよろしく願います。</p>	<p>職員研修をとおして啓蒙活動を推進します。</p>
25	-	<p>これまで、数々のことを実施してきた上で、更に数%を削減することは、しっかりした工程表（管理体制）がないと実現できないと思います。その部分が不明瞭だと計画書としての意味、及び、実行可能性が薄いと思わざるを得ません。</p>	<p>管理体制を明確化し、点検記録表の中で各所属において進捗状況を確認できるような、管理基準マニュアルを策定します。</p>
26	-	<p>平成29年4月の策定になるのであれば、平成28年度の環境問題啓発ポスター展の作品を載せたほうが良いと思う。</p>	<p>平成28年度の環境問題啓発ポスター展の作品を使用します。</p>